坂口公祥先生（医学科２３期）アンケートご回答

質問１　受賞の喜びをお聞かせください。
歴史ある同窓会松門会学術奨励賞に選んでいただき、ありがとうございます。大変光栄に思います。本研究は日本小児がん研究グループに参加されている国内の小児血液・腫瘍を専門にされている先生方のご協力で形にすることができました。特に直接ご指導いただいた京都府立医科大学小児科の今村俊彦先生と杏林大学保健学部の滝智彦先生、いつも私を支えていただいている浜松医科大学小児科の先生方に感謝いたします。

質問２　いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。
2013 年に他院からこの研究の対象になった患者さんが紹介されてきたことがきっかけとなりました。白血病細胞の形態や *MYC* 遺伝子関連の染色体異常といった成熟 B 細胞腫瘍であるバーキットリンパ腫/白血病に一致している一方で、細胞表面の抗原はもう少し未熟な B 前駆細胞型という急性リンパ性白血病でした。当院には再発時に紹介となりましたが、非常に治療抵抗性で残念ながら患者さんを救命することはできませんでした。この患者さんのような特殊な急性リンパ性白血病はどれぐらいの頻度で発生し、どのような性質を持っていて、どういった治療をすれば良いのかを知りたいと思いました。2014 年から小児白血病研究会という小児白血病多施設共同臨床研究グループの急性リンパ性白血病に関する疾患委員になったことから、後方視的調査研究を提案しました。その後小児白血病研究会だけでなく、他の 3 つの小児白血病多施設共同臨床研究グループのデータも持ち寄り、All Japan のデータとして解析を進めることになりました。

質問３　今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。
やはり、非常に稀な疾患群であったことから、国内のデータを集積することに苦労しました。また、稀な疾患群であるため 20 年近く前の症例の情報を見ることもありましたが、この場合にはデータの欠損値が多く、せっかくデータを提供していただいても対象として組み入れられない例があったことも苦労しました。

質問４　近況をお聞かせください。
浜松医科大学小児科で小児血液・腫瘍領域の責任者として、診療・研究・教育に携わっております。診療においては小児から思春期世代に発症するがん全般と小児の血液疾患を対象としており、抗がん剤治療だけでなく造血細胞移植も行っております。研究に関しては本研究のような臨床研究だけでなく、白血病細胞の in vitro 薬剤感受性試験といった基礎研究も行っております。

質問５　今後の課題についてお聞かせください。

現在は再発小児 T 細胞性急性リンパ性白血病に関する後方視的調査研究を実施しておりますので、こちらの結果をまとめていきたいと考えております。また、再発急性リンパ性白血病や乳児急性リンパ性白血病を対象にした in vitro 薬剤感受性試験の結果もまとめていきたいと考えております。

質問６　今後の同窓会に望むことをお聞かせください。
奨励賞をいただけたことはたいへん励みになりました。今後も継続していただき、同窓会の先生方にとって、研究を行うモチベーションになればと思います。同窓会のさらなる発展を祈念しております。